

◇雲南市のキャリア教育◇ 『夢』発見プログラムの実践 「十十メの関係」



雲南市では、キャリア教育を雲南市教育の中心とし、キャリア教育推進プログラムである『夢』発見プログラムを市内全保育所、幼稚園、小学校、中学校で取り組んでいます。これは、ふるさと雲南を学ぶことを通して、「社会に貢献し夢や希望をもってたくましく生きぬく子どもの育成」を目指すものです。

また、学習意欲を向上させ将来への夢や希望をもつ子どもを育成するためには、自己肯定感・自尊感情を高めることが重要であると考えています。そこで、異年齢「十十メの関係」の意図的な関わりが、活動中やその後の児童生徒の自己肯定感・自尊感情の高揚に効果的であることに着目した活動を展開しています。(雲南市では、大人から子どもが学び取る学習形態を「縦の関係」とし、異年齢集団での学び合いを「十十メの関係」と捉えています。)

今回は、「十十メの関係」を活かした取組を紹介いたします。

<幼稚園児と小学生の「十十メ」>

「ヤマタノオロチから太鼓遊び」

- ①園児がヤマタノオロチについて知る。
→ 小学校の神楽クラブ見学
- ②神楽遊びや太鼓遊びを通して地域に根付く神話に親しむ。
→ 地域の方を講師に太鼓演奏
- ③太鼓演奏を披露したり小学校児童とともに演奏したりしながら太鼓遊びを楽しむ。
→ 小学生とスポーツフェスティバルで協奏



(幼稚園担任から)

多くの活動を小学校と連携して行っています。園児に関わる児童の姿を見て成長を感じます。園児も小学生の姿を目標にして、いろいろな活動に意欲的に取り組んでいます。

<中学生と大学生の「十十メ」>

「将来の自分をみつめる カタリバ」 H25.8.21

- ①先輩の話を通して、多様な価値にふれ今の自分に向き合うことの大切さを実感する。
→ 大学生の自分ガタリ
- ②対話を通して、自分自身の価値を認識し自分の言葉で「未来への一歩」を言葉にする。
→ 中学生の自分ガタリ
- ③自分自身の「変えたい自分」「変わりたくない自分」を宣言し合う。
→ 将来の自分に、みんなで「約束」



(中学生の感想から)

私と同じような気持ちだった先輩もいたので、とても共感できたしこれから一緒に考えることができました。自分の決めたことを最後までやり遂げると約束したので、しっかり守っていきたいです。

<小学生と高校生の「十十メ」>「高校生と小学生が取り組む『小学校外国語活動』」 H26.1.22

(小学校6年外国語活動「世界の童謡を演じよう!」高等学校1年特別活動「学ぶことについて考える」)

小学生…高校生との関わりを通して、4年後にやってくる「高校生」のよいモデルを体験する。英語を活用している高校生と活動することにより、「外国語活動」への関心を高める。
高校生…「教える」体験を通して、小学生との関わりから達成感や自己肯定感が得られるようにする。英語の音声表現をよいモデルとして示すことで、より音声重視の英語を習得・表現できるようにする。

- ①仲良くなる → 英語で自己紹介、英単語当てゲーム
- ②英語劇を楽しもう
→ 小学生台詞 “Riceball rolling falling down!!” の練習
高校生英語劇「おむすびころりん」を観る、参加する
- ③ふりかえろう → 感想発表 (グループ→全体)



(小学生の感想から)

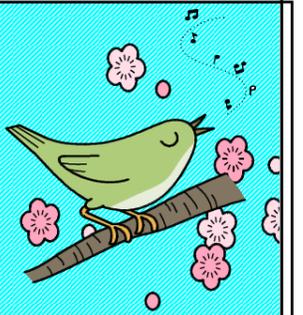
高校生がした「おむすびころりん」の英語バージョンは分からない英語がたくさんあったけど、ジェスチャーがあったので、何がしたいのかわかりました。英語はあまり分からないけど、今日の高校生みたいに英語が話せるようになったらいいと思いました。

(高校生の感想から)

最初は小学生も恥ずかしそうにしていたけど、こちらが問いかけると元気に反応が返ってきてとても嬉しかったです。問いかけてそれに答えてくれるというキャッチボールが成り立つことはこんなに嬉しいことなのだということを初めて知りました。同年代との活動も大切だけれど、年代の離れている人同士だからこそ得られるものがあるのだなと思いました。

所報
第49号

管内の教育



出雲教育事務所
平成26年 3月

主な内容

- 1 所長 プラス思考で
- 2 学校訪問指導 一今年度を振り返って
- 3 しまね学力向上八か条
- 4 雲南市のキャリア教育の実践

プラス思考で

所長 原 悟司

今年度も残すところあとわずかとなりました。年度のまとめ、次年度に向けた計画立案、準備等お忙しい毎日ではないかと思えます。また、今年度限りでご退職・ご辞職されます教職員の皆様には、長い間、本県教育の推進、しまねの子どもたちの育成にご尽力いただき、本当にありがとうございました。厚く感謝申し上げます。

さて、先日、ある研修会に参加させていただいた折、昨年まで OECD に勤務されていた文部科学省の官僚の方から、次のようなお話を伺いました。PISA でお馴染みの OECD は、加盟国の教育システムについての評価 (OECD: 「Strong Performers and Successful Reformers」にまとめられている。)を行っていて、他国の教育システムと比較して日本の教育について概ねプラス評価をしているという話でした。ここでは、その話で使われた資料の一部 (主たる強み) を抜粋してご紹介します。

……国際的な比較の結果、日本の学校制度は学習成果の質や学習機会の均等な配分、費用対効果の点で、世界で最良のシステムに数えられることがわかった。…日本の最大の財産は、相変わらず社会が教育に重きを置いていることである。

- ①教育への献身的な取組
(日本国民はこれまで、何よりも教育を重視するという選択をしてきた)
- ②どの児童生徒も高い水準に到達できるという確信 (日本の教育システムは、均等かつ優れた学習成果を実現している)
- ③伝統的価値観 (集団活動等) の重視
(どの学校でも、努力と忍耐を奨励し、…率先して他者を助けることを奨励し、謙虚な態度を奨励し、他者の功績を素直に認めることを奨励するのである)
- ④効果的な指導法
(日本の教員は、計画を立て、他の教員と協力し、個別指導を要する児童生徒を一对一で指導し、授業研究に従事する時間を持っている)

⑤質の高い教員

(日本の教育の質で重要なのは、教員の質の高さであると言われる)

⑥高い社会的規範

(…、個人よりも集団の幸福を重んじる日本人の価値観を形作ってきた)

⑦学校と家庭の円滑なコミュニケーション

(全てに通底しているのは、児童生徒の学業成績を主に左右するのは能力ではなく努力だという信念である)。

どのように感じられましたか?とかく、自国の教育の成果あるいは、携わっている教員の資質、社会の教育力等を低く見がちではありますが、国際社会は、プラスの評価をしていることがわかります。そして、私たちが先人から受け継いできた心の持ち方、生き方や考え方に対する評価であるとも言えると思います。具体的には、他者との共存、人との絆・協調性、勤勉性、忍耐力、高い規範意識などでしょうか。

島根の教育を、上記①～⑦の視点から見た場合、県民性、子ども及び教職員の資質能力、学校・家庭・地域社会の連携状況等からみて、全てにおいて高いレベルにあるのではないかと考えています。

この評価は、他国と比較してのものなので、少し差し引いて考えなくてはならないと思いますが、日本 (島根) の教育を進めていく自信と勇気をいただいたように思います。

今、いじめ・不登校や学力に関する課題等も指摘されているのも事実ですが、私たち教職員は、プラス思考で、前を向いて努力している姿を日々の教育活動の中で、子どもたちに示していくことが大切であると思います。保護者、地域社会としっかりタッグを組み、力を合わせて島根の教育を進めていきましょう。



学校訪問指導 —今年度を振り返って—

本年度は、雲南市教育研究大会、飯南町教育研究大会、中四国中学校技術・家庭科研究大会、県体力向上モデル事業実践発表会、県人権・同和教育研究指定校事業等が開催され、それらに係る訪問要請が多数ありました。第Ⅱ群では言語活動の充実のための訪問申請がありました。出雲教育事務所では学校図書館の活用、CAN-DOリストの形での学習到達目標の作成など第Ⅱ群での訪問も可能です。各校に配布される学校訪問指導実施要項を参照され、是非ご活用ください。今年度の実績は下記のとおりです。

第Ⅰ群（教育課程管理等）	200回	
第Ⅱ群（教科等指導）	90回	
第Ⅲ群（特別支援教育）	65回	
第Ⅳ群（生徒指導）	38回	
第Ⅴ群（初任・経験者研修）	38回	
その他（研修会講師等）	67回	
合計 498回		

（※複数の指導主事での訪問は、各自が1回で計上しています。）

第Ⅱ群(教科等指導)においては、自校の研究推進や学力向上に課題意識をもち、指導法の改善に向けて、研究主任を中心に熱心に取り組む学校が多くありました。また、思考力・判断力・表現力等を育成する視点から、解決したことを説明したり、表現し伝え合ったりするなどの言語活動を取り入れた授業が多く見られ、授業のねらいの達成に役立てられていました。

研究協議の方法として、従来から行われている方法だけでなく、ワールドカフェ方式、KJ法等が取り入れられ、参加者全員が発言できるような雰囲気づくりに配慮されていました。研究授業から得たものを教員みんなで共有するという姿が定着しつつあります。

第Ⅴ群では、今年度から講師経験1年目の方を対象とした訪問指導を設けたところ、3校から希望がありました。講師の方には研修の機会が少ないので、授業力アップという点から来年度も大いに活用していただきたいと思ひます。

校内研修への要請では、特別支援教育に関して本年度は幼稚園からも研修の申請がありました。他の園からも多くの参加者があり、行動分析の手法で子どもの言動を観察し、そこに込められた子どもの思いを知って対応を考えることの重要性を共有されました。また、ある中学校では言語活動の充実を再確認するために、全教員参加の校内研修が行われました。基本的な考え方の説明の後、教科担当者ごとに分かれ、生

徒や言語活動・言語環境の強み・弱みを共有し、すぐに取り組める言語活動を考える演習をしました。学校独自の特色ある教育活動が展開されるように、各校とも継続して研修に取り組んでいただきたいと思います。

学校訪問指導を通して見えてきた課題もいくつかあります。県教育委員会が出している資料(「指導の重点」、「実りある授業のために」等)が十分に活用されていないことです。これらは国や県の学力調査の結果や学習指導要領の趣旨を反映して作られたものです。日々の授業に活かせるように、来年度の学校訪問の際に活用の仕方についてもいっしょに考えていこうと思っています。また、中学校では公開授業に参加される教員の数は年々増えていますが、研究協議に参加する教員が少ないという実態があります。ある中学校では、共通の視点(課題提示や振り返り)をもとに全員が研究協議に参加し、教科の枠をこえ、活発に話し合いがなされていました。来年度も、授業改善の取組の推進、授業力の向上、課題解決に向けた校内研修等で子どもたちの確かな学力の育成についていっしょに考えさせていただきます。

次頁に「しまね学力向上八か条」(簡易版)を掲載しました。是非今年度の実践の振り返りや評価をする際の参考にさせていただければと考えます。



「しまね学力向上八か条」授業改善からのアプローチ 簡易版

確かな学力

出雲教育事務所

視点③ 学習集団づくり 学級経営

子どもが互いに認め合い、高め合う集団づくりに取り組む。

- ①集団づくりの過程を通した学習規律・望ましい人間関係の形成
 - ・集団で学び合う価値の実感
 - ・聴く態度・人とのかかわり方等の体得 など
- ②共に取り組む学級経営
 - ・学校・学年で共通して取り組む目標や活動の設定
 - ・学年会等で話し合いの場の設定 など

視点④ 学校の体制づくり

全教職員で、めざす子どもの姿の実現をめざして取り組む。

- ①全教職員による取組
 - ・全教員が研究授業を公開
 - ・学力調査分析、研究テーマ等の課題と方向性を全教職員が共有 など
- ②研究授業と協議の活性化
 - ・めざす子どもの姿について焦点化した協議
 - ・課題を明確にし、課題解決に沿った研究協議
 - ・異なる視点からの助言(外部講師の積極的要請) など

視点⑤ 家庭・地域・異校種との連携

子どもの生活習慣を家庭・地域・校種間連携の中で育む。

- ①家庭・地域と連携した生活習慣の育成
 - ・「ふるまい向上」がキーワード
 - ・取組が家庭・地域にみえるようなポスターや標語等の工夫
 - ・重点を明確にした取組 など
- ②幼・保・小・中・高の連携
 - ・発達段階を見通した子ども像の共有
 - ・「家庭学習の手引」の活用
 - ・子どもの学びや育ちに関する情報の確実な引継ぎ など

授業改善

視点① 目標、指導、評価の一体化

評価規準で示した子どもの姿が表れているかを見取り、柔軟に授業の流れを展開する。

視点② 思考力・判断力・表現力等の育成

言語活動を意図的・計画的に行う。学校図書館を効果的に活用する。

本時

目標の設定

本時のねらいを各教科等の特質と子どもの実態に応じて明確に設定する。

評価規準の設定

ねらいが達成されたときの子どもの姿を具体的に設定する。

導入

ねらいに迫る課題が、子どもに明確になるようにする。

- ・習得した知識・技能を生かす。
- ・生活経験等とのズレを生じさせる。
- ・子どもとの対話を深める。
- ・提示方法を工夫する。 など

展開

ねらいに沿って、子どもがじっくりと考える場面をつくる。

- ・中心となる学習場面を明らかにする。
- ・子どもの思考を促す発問を工夫する。 など

言語活動を行う場合、目的(何のための活動)、方法(どのような活動)を明確にし、適切な場面を設定すること。



★授業を方向づける

- ・子どもの考えを把握する。
- ・発言の取り上げ方を工夫する。
- ・発言を価値づける(まとめる)。
- ・受容の評価言をする。 など

★子どもの姿を見取り、柔軟な授業展開を心がける

- ・指導の方向を修正する。
- ・発問を組み立て直す。
- ・個別の支援を行う。 など

終末

ねらいに照らした終わり方を意識する。

- ・板書で本時の学習を振り返る。
- ・ポイントとなった発言を振り返る。 など

評価

評価規準に照らして評価し、その結果を今後の指導につなげる。

視点⑥ 学習支援

つまづきを見落とさず、個への支援と学級全体への支援をする。

- ①つまづきへの具体的支援
 - ・問題数の調整
 - ・注意喚起後の問いかけ
 - ・相談・質問できる場の設定 など
- ②授業のUD化
 - ・構造的な板書
 - ・視覚的な提示
 - ・具体的な指示
 - ・短くポイントを絞った説明 など

視点⑦ 指導計画の充実

他教科等との関連等を図った指導計画を作成し、活用する。

- 指導に活用できる指導計画の作成
- ・指導目標と各教科等及び各学年相互の関連を明確にした全体計画
 - ・道徳との関連、学校図書館の活用を明確にした年間指導計画
 - ・「学習評価を生かした授業改善のためのハンドブック」等の活用
 - ・特別支援学級と通常の学級との交流・共同学習の意図的・計画的な実施 など

視点⑧ 教育課程編成・実施・評価の工夫

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた特色ある教育課程を編成する。

- ①教育課程に関して全教職員の共通理解
 - ・研修の機会をもつ。
 - ・編成組織の確立と作業分担 など
- ②実態や課題の的確な把握と教育目標の共通理解
 - ・学校評価・学力調査の結果などの活用
 - ・学校教育目標を全教職員が理解する。 など
- ③教育課程の編成と評価の計画的実施
 - ・学校教育目標の実現をめざし特色ある編成を行う。
 - ・評価の時期・方法を明確にし、評価を改善に活かす。 など